

# 論壇

## 「レバレッジをかける」

新聞に出ている本の広告を眺めていたら、「年収400万円のサラリーマンが1億円の資産を形成する方法」というような書籍の広告が目に入った。この本を読んだわけではないが、自分なりに本当にそんなことが可能であるのか考えてみた。

仮に収入の半分の200万円を毎年貯蓄したとしても、金利を考へなければ、1億円ためるに5年かかる計算になる。そもそも200万円で生活するのは厳しいし、税金だつて払わなければいけないだろう。1億円の資産をため

伊藤 元重 (国際経済学) 学習院大教授

るためとは言つても、そんな長い期間切り詰めた生活をするのは厳しい。

そこで別の方法があることを思いついた。金融機関からお金を借りて、それを不動産などの資産に投資すればよいのだ。仮に1億円ぐらゐの資金を2%程度の低金利で借りることができ、それが不動

## 「危険な投資」と金融機関の責任

産投資で6%の収益率で回れば、ある程度の期間で資産を1億円に

することが可能だろう。すぐに1億円も借りることができなければ、最初は少額からの投資ということが現実的だろうが。

読者の方々はなんと危ない話だ、と思うだろう。そしてそんな

ことが本当に可能なのか、と疑う

だろう。確かに危ない話だ。ただ、世の中にはこうした投資をする人が結構いるようだ。金融業界では、こうした運用を「レバレッジをかける」という。レバレッジとは槌子という意味だが、外から資金を借りてくることで、自分の資産の何倍もの規模で投資を行うの

だ。

問題は、プロの投資家や金融機関ならまだしも、普通の人がそうした危険な投資をすることがよいことなのかということだ。自己責任だからよい、という人もいるかもしれないが、そもそもそうした形で多くの資金が金融機関から融

資されることはおかしい。

こうした話を書くと、シェアハウスへの投資に対して行われたスルガ銀行の融資のことを思い浮かべる人も多いだろう。この件については詳しい事実を調べたわけではないが、もし返済能力の少ない人に高いレバレッジをかけた融資をしたとしたら、金融機関の行動としては問題だと思う。借りる方にも責任はあるが、貸す方にも責任があるはずだ。

## 大恐慌経た業界の反省

1920年代のバブルの破綻を受けて、30年代に米国で大恐慌が起きたとき、多くの金融機関の経営がおかしくなった。後になって調べてみると、バブルの時代に、金融機関の中には随分とリスクの

高い融資や投資アドバイザーをしてきたところが少なくなかった。

高齢の女性に多額のリスクの高い投資信託を販売した金融機関などがやり玉に上がった。難しい構造のリスクへの判断力があると思えない高齢者に、リスクの高い投資信託を大量に販売するのはおかしい。金融業界はそうした反省のもとに、改革を進めたそう

だ。  
お金は魔物だ。時として、お金に目がくらんで、好ましくない行動をとる人もいる。お金を客観的にみることのできる立場の金融機関は、異常な投資行動に人々が走らないように誘導する責任がある。過度なレバレッジをかけた資産運用を助長するような融資など、絶対にしてはならない。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。